

○目標・方針

<p>中期的な学校運営の目標・方針</p> <p>【学校教育目標】『ふるさと青垣を愛し 自ら学び たくましく生きる 児童生徒の育成』 ～自ら学び 自ら鍛える 地域に誇れる 青中生～</p> <p>①小中高連携・地域連携・自治活動の推進等により、生徒の自尊感情や自己有用感を高める。 ②教職員自らの振り返りとチーム力により、教職員が自身の授業実践力や組織的対応力を高める。 ③自ら意欲的に学び、自学・自走できる生徒の育成を目指した魅力ある授業づくりを進める。 ④生徒と向き合う時間の確保と、働きがいのある学校づくりを目指した業務改善を推進する。</p>	<p>本年度の重点目標</p> <p>【学校経営】 地域とともにある学校づくり ・体験・ボランティア活動の推進 ・コミュニティスクールの推進 ・家庭との連携 ・小中高連携</p> <p>【生徒指導】 心の通い合う生活指導 ・安心して学べる居場所づくり ・自治的諸活動の活性化</p> <p>【学習指導】 自立に向けた確かな学力の育成 ・組織的な指導体制 ・授業改善 ・学びに向かう力の育成</p>
---	--

○自己評価

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	学校の取り組み状況と改善の方策
学校運営	学校経営	信頼される学校づくり	A	<ul style="list-style-type: none"> 11月に事業所での「トライやる・ウィーク」を3日間実施し、生徒の取り組む姿勢やあいさつ等に、多くの賞賛の声をいただいた。 コミュニティスクールによる技術科や家庭科への学習支援サポートは、3週にわたる連続した活用になり、大きな教育効果を上げた。 2月中旬には、『NPO法人佐治倶楽部』によるアントレプレナーシップ講座により、地域の魅力を再発見する取組を行った。 学校行事は、来校制限や内容の削減などの対応を迫られたが、保護者アンケートでは80%の方に適切であると評価をいただいた。 71%の保護者が、生徒や学習について気軽に相談できるとしているが、今後更に相談しやすい関係づくりを進めることが大切である。また HP 等を利用した効果的な情報発信を行うことも必要である。
		家庭・地域連携 学校行事・教育活動 コミュニティスクール		
	小・高との連携推進	C	<ul style="list-style-type: none"> 7月に行った小中高連携による地域清掃ボランティアは、当日猛暑のため中高のみの活動になった。また中高による芸術鑑賞も実施した。 来年度入学生（現6年生）から多様性の時代に適応した新制服（SDGs 制服）に変更する。そのため6年生に対して、その制服の特徴や魅力を紹介する取組を行った。 その他、各行事やオープンスクールでの交流等の連携事業は、コロナ禍により中止の判断を余儀なくされた。その中でも中高連携を模索した会議は継続して開催することができた。 	
	青垣小と氷上西高との連携活動			
生徒指導	地域に誇れる青中生の育成	B	<ul style="list-style-type: none"> クラスが楽しいと回答した生徒は90%、意欲的に授業に取り組んでいるとした生徒は92%であった。感染予防対策として1・3年生をハーフサイズクラスに分け、全学年を2クラスにしていることが、落ち着いた環境づくりに寄与していると思われる。 学校に行くのが楽しいと回答した生徒は78%と昨年度より7%減少した。特に3年生が70%と低く、コロナ禍の生活や学習不安が影響していると考えられ、卒業まできめ細かな支援を継続していく必要がある。 気持ちのよいあいさつを自分からしているとした生徒は96%で、保護者アンケートでも86%と、よくあいさつをしている姿が示された。 学校のルールを守っている生徒は99%と非常に高いが、いじめなどで嫌な思いをしたことがあるとした生徒は20%、特に1年生は34%であった。いじめや悪いことをしたときには適切に指導してくれるとした生徒は91%あり、いじめは絶対に許されないことであることを再度徹底し、人権感覚や他者理解を高める指導・支援を継続していくことが求められている。 	
	好ましい人間関係豊かな集団づくり			
教育課程	自治的諸活動の活性化	B	<ul style="list-style-type: none"> 部活動は楽しく意欲をもって参加しているとした生徒は90%、掃除にしっかり取り組んでいるとした生徒は97%、生徒会活動に積極的に取り組んでいるとした生徒は92%と、生徒が意欲的・積極的に学校生活を送っている様子が伺える。 学校行事はクラスの団結や自分の力を発揮できる場となっているとした生徒は93%である。しかし自分はクラスに役立っているとした生徒は67%（昨年度から5%減少）、自分にはよいところがあるとした生徒は79%（昨年度より7%減少）であり、自治的、主体的な力の向上やキャリア教育等を通して、自尊感情や自己有用感を高めるとともに、将来に希望や夢をもてる生徒（今年度74%）の育成を目指すことが必要である。 	
	主体性の育成 自尊感情・自己有用感の向上			
学習指導	確かな学力の向上	A	<ul style="list-style-type: none"> 先生はわかりやすいように授業を工夫しているとした生徒は89%、良いことや努力したときには正しく評価してもらえるとした生徒は95%である。これは、全教員がICTを積極的に活用し、多くの教科で少人数指導を展開したことにより、一人ひとりに寄り添う時間が確保され、安心して学べる環境が維持できている成果だと考える。 学力向上推進委員会を定期的に開催し、学期ごとに授業改善のポイントを意識して取り組んだ。特に話し方や聞き方の工夫により、発言しやすい環境づくりやキーワードに気づく聞き方の支援を心掛け、コミュニケーション能力の向上を目指した。 朝読書、朝学習に積極的に取り組んでいる生徒は91%で毎年微増している。読書活動を進めるため、図書室運営の見直しや読書に関するアンケートを行った。 	
	授業の工夫・改善			
	家庭学習の定着	C	<ul style="list-style-type: none"> 平日スマホやPCを3時間以上使用している生徒は19%で、昨年度より13%減少した。しかし平日学校の授業以外の学習時間は、昨年度とほとんど変わらず、2時間以上は26%のみである。特に1年生は、1時間以下が32%と2・3年生よりかなり多く、家庭学習の確保は本校の大きな課題である。 しかし家で自分で計画を立てて勉強しているとした生徒は60%と年々増加傾向であることから、基礎学力の向上を目指した「礎チャレンジ」など、家庭学習を促す取り組みが徐々に浸透し始めている傾向もある。タブレットを家庭でも有効活用するなど、引き続き学びに向かう力の育成を目指した取組が必要である。 	
	学びに向かう力の育成			

○学校関係者評価

自己評価の各観点に対する評価
<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍、地域と連携した活動ができたことは評価できる。 「トライやる・ウィーク」では、意欲的な姿勢がよく見られ、青中生として地域に誇れると感じた。将来のこともよく考えていた。生徒の成長に大きく影響していると思う。 校内で生徒ともしっかりと触れ合い、授業や活動の様子が見たかった。 学校行事の来校制限などのアナウンスをHPでもしてほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 小中高が連携し、職員間で情報共有ができていることは素晴らしい。違う学校の身近な年代の人と交流した生徒からは、想像以上の感想が聞かれた。 制服の変更も大きな取組で、時代を影響することだと思う。新制服が楽しみです。 今年度も多くの行事等の中止があり、残念だった。
<ul style="list-style-type: none"> 一番楽しい学校生活を送ってほしい3年生が70%と低いのが残念である。卒業まで1つでも多くの心に残る思い出を作してほしい。 クラスが楽しいと回答できない10%の生徒には、特に心配が必要だと思う。コロナ禍、本当のしんどさに気づける関係性が必要である。 ハーフサイズに分けることで、一人ひとりに目が届きやすくなっている。生徒の内面的な不安解消は難しいが、周りの人すべてでサポートし見守る必要がある。 登下校時、気持ちのよいあいさつをしてくれる生徒が多くうれしい。一部あいさつができない生徒がいるのは残念である。 いじめは、芽が小さいうちに摘み取る体制が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> 部活動、掃除、生徒会活動にしっかり取り組んでいる様子が伺える。 部活動は選択肢が少ない中、意欲的に参加している生徒が90%というのは驚いた。 部活動は、楽しく友人や先輩と過ごす中で、スキルだけでなく、自信や人への思いやり等もアップさせてほしい。 将来に希望や夢をもてる生徒が74%というのが心配である。大人の責任も大きい。
<ul style="list-style-type: none"> ちゃんと見てくれることをうれしいと思っている表れの95%である。そこは先生方の努力の結果で評価できる。 青垣中生の学力について、角度を変えて見ると、いろいろと課題が見えてくるように思う。 学びたい生徒とそうでない生徒の差があると感じている。友だち同士でがんばり合える環境なら、学校の雰囲気もよくなるでしょう。 読書週間は、小学校と連携して継続してほしい。
<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習は、小学校からの積み重ねが大切である。学ぶ楽しさやおもしろさが実感できれば家庭学習の充実につながるのではないかな。 スマホやPCの影響で、もったいない時間の使い方や、視力低下などが心配されるが、上手に付き合っているよう指導してほしい。 中学校に部活動があることも家庭学習がとれない要因ではないかな。何をどのように取り組めばいいのか、効率よく学習するにはどうしたらいいのかなど、取り組むための考え方も指導してほしい。

※領域（3領域） 学校運営、教育課程、課題教育
※評価の観点例（網羅するのではなく、各学校で観点を絞る）

領域	観点例
学校運営	学校経営、組織運営、生徒指導、進路指導、教職員の育成、危機管理、安全管理、保護者・地域住民との連携、施設設備 等
教育課程	学習指導、道徳教育、総合的な学習の時間、指導方法の工夫改善 等
課題教育	特別支援教育、人権教育、福祉教育、情報教育、食育、防災教育、環境教育 等

※達成状況 A：優れている B：おおむね良好 C：やや改善 D：要改善

自評価の実施方法についての評価

アンケートをもとに評価することは、数字があるのでとてもわかりやすいと思う。

コロナ禍により学校に足を運ぶ機会もなく、実際の様子を見ていないので、紙面のみでは評価が難しい。

学校関係者評価を受けての次年度の改善の方向性について

【学校経営】 コロナ禍により滞っていた小中高連携・地域連携・学校運営協議会との連携を再構築し、地域とともにある学校づくりを進める中で、さまざまな体験活動や人とのつながりを通じた生徒育成を進める。

【生徒指導】 生徒の自治的・主体的な活動を通して自尊感情や自己有用感を高めるとともに、多様な仲間を認め、互いに支え合いながら安心して学べる環境づくりを進める。

【学習指導】 ICTを最大限活用し個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させる。また、「礎チャレンジ」の取組や情報モラル教育を通して、家庭学習の充実など自ら学びに向かう力の育成を進める。

令和4年3月14日 学校名 丹波市立青垣中学校
校長名 大槻 隆 浩

学校関係者評価のまとめ

今年もほとんど学校内で生徒に触れ合いことができなく、どんな生徒がいるのか、また先生のお顔もわからないまま終わりそうです。

コロナ禍、できることを見極め工夫を凝らした学校運営がなされている。

一番多感な中学時代、これからも一人ひとりをよく見てあげてほしい。

